

## 第百八十六話 日米暗号戦、完敗！

ある本の中に、米軍による日本暗号の解読率が示されていた。本メモランダム第四十三話「情報戦で負けた日本」6項で書いた事項、所謂陸軍暗号安泰論を補強するものであり、然もありませんと感じた。それに対して異論や新事実が示されている。それについて述べる。



### 1 米軍の日本暗号解読率

「大東亜戦争「敗因」の検証」の66pには、「昭和軍事秘話(中)」(同台懇話会編)に、日本暗号の解読状況が以下の通りであると記述されていると云う。「外務省：誤字のないものはほとんど全部、全体の約95%が解読された。

海軍：約70%が傍受され、その約70%が解読された。 陸軍：戦争前半 0%、19年 0.08%、19年末以降 0.6%(含終戦後暗号をとられて解読されたもの)」であるという。これが通説としての陸軍暗号安泰論である。

### 2 陸軍暗号安泰説の根拠と反論

陸軍暗号安泰説の根拠は2点である。終戦後米軍関係者が“陸軍の暗号は解読できなかった”と述べたということ、陸軍の暗号は無限乱数方式であり原理的に解読されないというものである。確かに連隊暗号は無限乱数方式であり、上級部隊レベルでも重要文は無限乱数を使用したという。他にも非常事対策手段、人材の確保・教育の徹底、適宜な切り替えの実施等が行われて万全だったと安泰説者は述べる。

1970年代後半から公開された米軍機密資料に陸軍暗号の解読電文が含まれていたことから疑義が呈されるようになった。

解読できなかったと述べた米軍関係者名の証明の曖昧さや暗号関係者が機密情報を簡単に吐露する事への否定的意見も呈された。

陸軍の暗号担当者であった釜賀氏と、海兵出身の岩島氏の間で長らく論争が行われたが、決着がついたとは言えない。

3 仮に一部であったとしても解読されたのであれば万全ではなかったとは云える。だとしても、陸軍暗号は外務省や海軍の暗号に比較して相当堅固なものであったことは事実だろう。が、解読不能な無限乱数方式暗号が何故、解読されたのか？無限乱数を使用していなかったのではとの疑念もある。

4 解読されたことも知らずに使い続けた愚は繰り返すべきではないし、解読の恐れがあると大島駐独大使の危惧報告を無視した体質にも問題がある。米軍は独の情報を大島大使の電報解読によって得ていたとも云われるほどであり、防諜に無関心な日本の体質は問題だ。

マジック情報、パープル情報と米国は名付けて諜報に相当な努力を傾注しているが、日本との体質の差は何だろうか？無関心とは云わぬが、どうも感性が鈍い。農耕民族故と片付けて良いものではない。

5 本話で感じることは、如何な万全なシステムであろうとも、人為的なミスは避けられないものであり、その対策を万全にしなければならないということだ。現在は万全か？

(第百八十六話 了)